

クリスマス

クリスマスはキリストのミサという意味で、降誕祭のことです。新約聖書には、キリストの誕生日は書いてありませんが、太陽の力が復活に向かう冬至を祝う土着の祭りを吸収する形で始まったと考えられています。

キリスト教国では、クリスマスを記念する切手が発行されますが、その多くはキリスト降誕の場面が描かれており、そこには必ずと言ってよいほどウシとロバが描かれています。しかし、キリストの降誕の場面を記したルカによる福音書には、「ヨハネとマリアがベツレヘムに滞在している間に、月が満ちて、初子を産んで布にくるんで飼葉桶の中に寝かせた」とあるものの、そこにウシやロバがいたとは記されていません。ウシとロバが描かれるようになったのは、三大預言書の一つとされるイザヤ書の1章3節に「牛は飼い主を知りロバは主人の飼い葉桶を知っている。しかしイスラエルは知らず、わが民は悟らない。」とウシやロバさえ飼い主に忠実なのに、人間だけが、神の道から外れると嘆く言葉があることから、飼葉桶の中に寝かされたキリストを祝福する家畜として、後から加えられたものです。

また、翼の生えたウシやウシと共に描かれた人物の切手もあります。ヨハネの黙示録には、御座の周りに4つの生き物がいて、獅子、雄牛、人、鷲のようだったとの記述があり、其々6枚の翼があったとしています。また、旧約聖書のエゼキエル書にも預言者エゼキエルが4つの生き物を見たとしており、人、獅子、牛、鷲の顔を持ち、翼を持っていたとしています。これらの4種類の生き物は、人は人間としてのキリストの誕生、ウシは十字架における犠牲、獅子は復活したキリスト、鷲は昇天におけるキリストであると解釈されていますが、キリスト教美術における象徴表現では、新約聖書に収められている4人の福音書記者が当てはめられており、ウシはその中の一人であるルカを象徴するものとされています。